

ふなばし し こくまい こうりゅうきょうかい へい せい わん ど そう かい
船橋市国際交流協会 平成24年度 総会


船橋市国際交流協会の平成24年度総会が、5月18日（金）午後3時から船橋市役所11階で開催されました。

審議にさきだち、田村会長から次のような挨拶がありました。

(1)東日本大震災は、日本語教室を受講する外国人が中国の方を中心に半減するというかたちで、協会の活動にも大きな影響を与えた。

(2)姉妹都市交流25周年を迎えた昨年の10月、米国カリフォルニア州ヘイワード市において、記念事業が6日間にわたりおこなわれた。その際、藤代市長以下61名の親善使節団を送った船橋市及び船橋市国際交流協会の活動は、現地の日本総領事からも注目をあびた。

(3)協会はことし創立25周年を迎える。「世界の国から、こんにちは」（前回は3月8日インド国主席公使の講演）などの新しい事業で、よりいっそう協회를市民にアピールし、外国人との交流を深めていきたい。

会長挨拶にひきつづき、小石副会長が議長に選出されて議案審議にはいり、6議案すべて満場一致で可決されました。

24年度は委員会の改変などもなされ、陣容をあらたにした活発な活動が期待されます。従来の「ニューイヤーパーティ」や「国際交流のつどい」を、在日大使館とタイアップした「インターナショナルフェスティバル」として開催することになったのも、楽しい企画です。

質疑応答では、「協会は、市の活動とのすみわけと連携をよく考え、ポイントをしばって活動してほしい」との要望がありました。

総会終了後、地下食堂において懇親会がもたれました。

平成24年度役員一覧

役 職	氏 名
会長	田村 泰一
副会長(文化交流委員長)	嘉規 洋
副会長(広報)	小石 裕久
副会長(国際理解セミナー)	荒谷美枝子
副会長(日本語教室/相談窓口/ようこそ)	宮 慶助
副会長(総務委員長)	日野 隆
監事	相澤 友夫
監事	目崎 誠
総務委員長	日野 隆
広報委員長	塚原美都恵
文化交流委員長	嘉規 洋
外国人相談窓口委員長	野上 絢子
ようこそふなばし委員長	清河 昌之
日本語教室委員長(新任)	大前 肇
国際理解セミナー委員長(新任)	今村 俊一
<参考> 船橋市の外国人登録数(概数) 11,400人 7,800世帯 90か国 (平成24年4月現在)	

広報委員 渡部

委員会活動紹介

国際交流協会の事業はボランティア活動をベースとした委員会活動を中心に行なわれています。今年は協会発足25周年に当たります。活動をより充実させるために2つの委員会が新しく編成され、従来からの5つの委員会と合わせて7つの委員会で活動が進められることになりました。

新しく編成された委員会は、一つは「国際理解セミナー委員会」で、他は「文化交流委員会」です。国際理解セミナー委員会では、船橋市と連携で、在日海外公館から順次講師を招聘して、文化・伝統・産業や国情などについて講演して頂くセミナーを定期的に開催することを計画しています。これにより多くの国々との交流が更に広がっていくことを期待しています。文化交流委員会は、従来からあ

った「姉妹都市委員会」と「交流委員会」を統合し、新しい委員会としました。姉妹都市との交流強化に加え、船橋の文化や伝統を研究しながら国際交流で大きな力となる我々のアイデンティティの再確認をし、より積極的な国際交流活動を目指します。こうした委員会活動に、より多くの在住外国人の参加も積極的に進めていきます。

この2つの委員会を含めた7つの委員会は今年度下表の様な活動を行なっています。

これらの委員会事業活動をはじめ、国際交流事業活動全般は総合企画会議によって一元的に検討され推進されます。

広報委員 廣田

国際交流協会 委員会活動の概要

総務委員会	多文化共生活動のリーダー養成、他の国際交流団体の後援、災害時外国人サポーター研修、調査・研究
広報委員会	協会ニュース年3回発行、HPの充実・メンテナンス、協会パンフレットの改訂、地域メディアへの働きかけ、協会PRメディアの充実（映像化）
文化交流委員会	地元文化の研究・研修、外国人ネットワークの検討、姉妹・友好都市のホット通信、姉妹・友好都市周年事業への支援
外国人相談窓口委員会	毎週月・金曜日の相談窓口開設、相談窓口活動を行なっている他団体との交流、各種研修会や情報交換会への参加、ボランティア研修会の開催、ボランティア通訳・翻訳の支援など
ようこそふなばし委員会	年4回の在住外国人向け生活情報誌の発行（日本語、英語、中国語、*スペイン語、*韓国語…*はHPのみ）
日本語教室委員会	市内7会場での通年教室、春・秋の日本語初心者速習講座、学習支援ボランティア向けの養成講座・ブラッシュアップ講座・フォローアップ講座
国際理解セミナー委員会	在日大使館員を招聘してのセミナー（24年度は2回を予定）

各委員会では随時ボランティアを募集しています。ご関心をお持ちの方はHPからアクセス下さい。

HP : <http://fira.jp>

日本語短期速習講座

毎年春と秋の2回日本語短期速習講座が行われていますが、今年度第1回目が5月15日～7月19日の火、木の週2回（9：30～12：00）、市役所にて開催されています。今回の受講者はタイのバティアさん、中国の乙さん、フィリピンのジェネリンさん、イギリスのフレイバーさんの4名です。

講座2回目の授業は50音表を利用して発音の練習から始まりました。挨拶、お天気、自己紹介（住んでいる場所、仕事）、好き、嫌いの表現、数字の読み方、電話番号の聞き取りなど、短い日本語の単語を使用して理解を促しながら、次のステップへ進めていくという教え方は、日本語初心者にはとても分かりやすいと思いました。また短時間で多くの文や単語が覚えられるように教材もよく工夫されているので、学習者にとって復習がしやすい感じがしました。

この速習講座は全18回ありますが、船橋で日常生活する上で最低限必要な日本語を、短期に習得することに重点が置かれているので、これから日本語を学ぶ外国人にとってとても役に立つ講座ではないかと思いました。

広報委員 塚原



満和先生によるひらがなの書き順



自己紹介の構文



授業風景

「ふなばしアンデルセン公園」の、名前の由来について、公園を訪問して細谷園長さんにインタビューをした。

まず、デンマーク・オーデンセ市と船橋市の交流の出会い、昭和59年11月オーデンセ市長一行がコンピューター高度利用の視察で船橋市を訪れたのが縁となったそうであると聞かされて話は弾んだ。

そして平成元年に姉妹都市提携調印に至り、幅広い交流が始まった。

平成6年姉妹都市提携5周年記念事業として、アンデルセン公園建設が決定し、技術設計や運営企画

は、H.C.アンデルセンの故郷であるデンマーク オーデンセ市の全面的な協力により、多くの技師が来船されて設計が進められた結果、約2年の歳月を経て平成8年10月に開園式を迎えた。

最近では、毎年50万人以上の来園者を迎え、平成24年4月では700万人の来園を達成した。

平成23年4月にはオーデ



アンデルセンが生まれ育った1800年代のデンマークの田園風景を再現したメルヘンの丘

ンセ市の市民団体「アンデルセン賞委員会」より、アンデルセンの作品の普及に功績あった個人や団体に、贈られる名誉ある賞を受賞した。この受賞は日本では初めてあり、公園施設としては世界初の受賞となった。

また、オーデンセ市との交流により、平成21年度からH.C.アンデルセンのもう一つの魅力である、切り紙の素晴らしさを広めるために「アンデルセン公園子ども美術館きりがみコンクール」が開催された。応募者数約1400点のなかから最優秀賞者1名をデンマーク旅行に招待し、今年7月にはオーデンセ市を訪問する予定だと、園長さんは語っていた。

アンデルセン公園を訪問した日は、気温24度の初夏を思わず爽やかな日であった。園内、風車道のメルヘン花壇では、ボランティアさんによって手入れをされた花々がきれいに咲いていた。

広報委員 中谷



「H.C.アンデルセン賞」受賞額をご披露くださった 細谷園長さん

日本語教室紹介シリーズ



今回は5月7日男女共同参画センターを訪問した。5月現在10カ国48名の学習者が14名の支援者のもとで学んでいる。内18名が中国出身と最多で、その他の主な出身地はフィリピン、台湾、韓国となっている。日本語の能力に換って8グループに分かれ、1グループは2名から8名で成っている。訪問した日は出席率が50%以下と低く、マンツーマンで指導というグループもあった。

基本的にはテキストを使用しているが、絵カード、黒板、ホワイトボードなどを併用し、解りやすい指導の努力が感じられ、学習者の楽しんでいる雰囲気と支援者の熱意が伝わってくる授業風景だった。

夏と冬にはお楽しみパーティーが開かれ持ちより

No2. 男女共同参画センター (月曜日9:45~11:45)

のお料理を味わったり、ゲームを楽しんだりするそうだ。その報告を兼ねて、「参画センター日本語教室新聞」がカラーで発行され、この1月で11号を重ねた。

この教室の特徴の一つは保育があるということで、男女共同参画センターという特性から独立した立派な保育室が設置されている。当日は2名のお子さんが保育ヘルパーに預けられていた。

個人的な感想だが、皆さん総じて日本語能力が高く、それでも漢字をもっと書けるようになりたいとか、もっともっと勉強して上のグループに行きたいとか意欲いっぱいのお学習者も見られた。



広報委員 中川

研修の報告

6月7日(木)、8日(金)の2日間、滋賀県の琵琶湖畔にある全国市町村国際文化研修所(JIAM)におきまして「平成24年度外国人スタッフエンパワーメント研修～多文化共生と私たち外国人スタッフ～」研修が開催され参加しました。

全国から国際交流協会に所属している外国人スタッフまたは外国にルーツを持つ職員21名が1泊2日の泊まり込みで、講義、情報交換、座談会を行う内容でした。

私は中国出身で、現在、船橋市国際交流協会の外国人相談窓口で相談委員として国際交流ボランティア活

動に参加しております。

今回の研修中、大澤智子さん(兵庫県こころのケアセンター主任研究員)が講義をしました。

講義で“外国人生活相談員と通訳の違い”、“相談員の役割”、“相談員自身のケア”などを学びました。

また、多文化共生にかかわる地域における外国人スタッフの役割や、他の地域の方々のいろいろな話を聞いたことでとてもよい勉強になり有意義な2日間でした。

外国人相談委員 水口 華月

国際交流協会行事日程

詳しいことは船橋市国際交流協会事務局(047-436-2083)までお問い合わせください。また国際交流協会のホームページにも掲載する予定です。

8月25日(土)～26日(日)	外国人避難宿泊訓練(災害時外国人サポーターブラッシュアップ講座同時開催)	10月4日(木)	協会25周年事業
秋	短期日本語速習講座 第2回	12月	カルフォルニア州立大学 イーストベイ校 留学生募集開始

お知らせ

<ホストファミリー(ホームステイの受け入れ家庭)募集>

「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として来日する韓国の高校生のホストファミリーを募集します。

訪問者 韓国青年訪日研修団(高校生)

期間 8月4日(土)午後～8月6日(月)午前までの2泊3日

募集世帯 14世帯(14名):1世帯で2名受け入れできる方はお申し出ください。

詳細問合せ・申込 7月13日(金)までに事務局(047-436-2083、E-mail:kokusai@city.funabashi.chiba.jp)までご連絡ください。

※日本語を勉強中の高校生たちです。

◎協会では、随時ホストファミリーの登録者を募集しています。詳しくは事務局(047-436-2083、E-mail:kokusai@city.funabashi.chiba.jp)までご連絡ください。

<多文化防災講座(全2回)>

日程 第一回 8月1日(木)「地域で進む多文化共生」

講師:大阪大学特任准教授 古宮 志津代 氏

第二回 8月7日(火)「東日本大震災を経て見えたもの」

講師:(公財)宮城県国際化協会企画事業課長 大村 昌枝 氏

時間 14:00～16:00

場所 第一回:船橋市職員研修所601研修室(消防局隣)

第二回:船橋市役所大会議室

対象 先着100人 費用 無料

申込 電話で市国際交流室(047-436-2083)へ

<大地震発生!避難所へいこう!>

地震の発生を想定し、学校の体育館での避難所宿泊体験を実施します。

実際に、避難所となる学校の体育館を使用した避難所生活を体験することで、いざという時の備えを考える機会にしましょう。

体験訓練では、応急救護法の指導や炊き出し、市の総合防災訓練への参加も予定しています。

日程 8月25日(土)～26日(日)

会場 未定(市内の学校)

費用 無料

対象 外国人住民とその家族 先着50人

申込み 参加者全員の氏名、年齢、代表者の住所、連絡先を明記して事務局へ FAX(047-436-2089)または、電話(047-436-2083)で申込み

あしがき

異常気象現象に思う

最近では竜巻、落雹、雷雨豪雨、気温の乱高下等が全国規模で頻発している。ラニーニャ現象の所為とか、日本付近上空の偏西風のルート異常南下の所為等と云々されている。前々から問題視されていた地球温暖化現象もそれらの要因の一つかもしれない。

文明向上、即ち利便性を追い求めて大量の化石燃料が惜しみも無く地球が自浄出来る以上に使い過ぎているツケが徐々に廻っているのかも知れない。

改めて資源の有効活用と環境保全への意識が強く求められる時代へと突入していることには違いあるまい。私達も身の回りの些細なことから地球環境改善へ進むべきではなからうか・・・。

(K I 生)